

(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		—			
事業毎の通番		市町村名		箕輪町		箇所名(ふりがな)			
						北の沢(きたのさわ)			
事業概要	事業目的	当該地にあった年代不詳の石積堰堤は、経年の豪雨により、袖部を残し消滅している。上流部は溪岸侵食が進行し、更に上流右岸には、比較的大規模な崩壊も発生していることから、谷止工、床固工各1個を新設し、下流保全対象への土砂流出防止を図る。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法			
	関連する事業、計画等	長野県地域防災計画 箕輪町地域防災計画							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家84戸、県道400m、町道1000m、農地7.6ha、一級河川							
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2021年度(令和3年度)	費用対効果	34.3		国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	谷止工(コンクリート) 1個 床固工(コンクリート) 1個			55,500	27,750		24,000	3,750	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	地域住民生活の安心安全の確保及びその他保全対象の保全							
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の観光振興に寄与							
評価の視点	必要性	○人家戸数 : 84戸 ○公共施設数 : 2箇所(県道、町道) ○要配慮者利用施設の有無 : なし ○保安林、林業用施設 : 土砂流出防備保安林 (S39・57谷止工)						評価	A
	重要性	○過去の災害履歴 : 過去には複数回、下流への土砂流出あり ○交通遮断による地域経済への影響 : 住民生活への影響大 ○地域防災計画上の位置付け : 県・土砂災害防止区域、土石流危険区域						評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 34.26 ○事業期間 : 2年間 ○工法等の比較検討 : 谷止工の種別の検討 ○流域の総合調整 : 今後、必要があれば調整						評価	A
	緊急性	○流域の地形、地質 : 領家帯縞状片麻岩 ○平均傾斜勾配(平均山腹勾配) : 溪床勾配30%以上 ○下流の堰堤等の整備状況 : S39・57谷止工 ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域 : 崩383-1、土砂災害防止区域(イエロー)						評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 町役場関係者に対し、公共事業化の説明済 ○地域の取り組み : 地区から役場を通じて要望あり ○地域の合意形成 : 同上 ○住民との協働 : 沢沿いにある水道施設について、住民による管理体制あり ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 3-1						評価	A
	所管課意見	当該地は、これまでの降雨に伴い溪流が荒廃するとともに、治山施設が老朽化により破損している。溪流内には依然として不安定土砂が堆積しており、今後の降雨により土砂が流出し、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。						採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

(どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	計画地下流には、竜西地域の重要な基幹道路である県道と地辰野線があり、その他人家(10戸)、町道、用水路等の保全対象もあるため、今後豪雨等により下流に土砂が流出した場合に地域の住民生活に与える影響が大きく、当該復旧工事への地元の強い要望がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該箇所は、過去に下流への土砂流出が複数あり、既設も倒壊消失していることから、地元下古田区から箕輪町に対して、事業要望が継続的に行われている。
③事業説明等の経緯	町役場に対しては、事業導入の可能性について説明しており、今後、事業実施が確実になった時点で、地元地区、へも事業説明を行う予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	当該地は土砂災害防止法上のイエローゾーンや土石流危険区域に位置付けられているが、保安林に指定されており、治山事業既施工地であるため治山事業で対応する。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該復旧工事は、狭隘な溪流内で実施されるため、自然環境や景観に与える負荷は少なく、谷止工の施工により溪間の安定が図られることによる地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、人家及びその他公共施設の保全が図られた場合に、地域の生活環境及び観光振興に対する好影響が期待できる。
⑦その他	○コスト削減、建設副産物削減、工法検討等について記載

事後・再評価からのフィードバック	航空レーザー測量の成果を事業計画に活用している。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 00' 00" 00 東経:E 36° 00' 00" 00
------------------	--------------------------	-------------	---

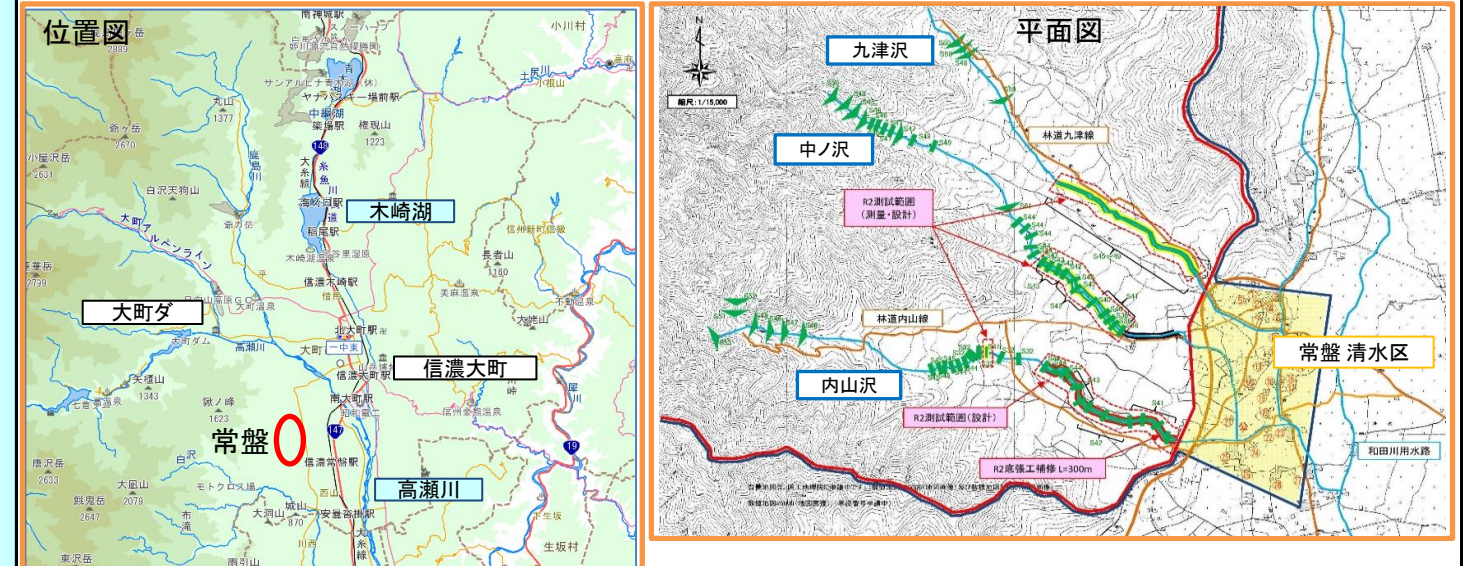


(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		—				
事業毎の通番		市町村名		大町市		箇所名(ふりがな)		常盤(ときわ)		
事業概要	事業目的	当該地は、昭和40年代を中心に谷止工・流路工が整備されてきたが、劣化による床固工の破損や、浸食作用による流路工の溪床部の洗堀が生じている。今後、この状態を放置すると、床固工の倒壊による土砂流出や、流路工(床固工・護岸工・帯工)全体の破壊につながる恐れがあるため、早急に老朽化対策を実施し、下流保全対象の安全を確保したい。								
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法				
	関連する事業、計画等	長野県北アルプス地域治山施設長寿命化(個別施設)計画								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家28戸、市道5Km、林道800m、公民館1棟								
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	2年間		事業費(千円)				
完成年度(見込み)	2021年度(令和3年度)	費用対効果	20.7		国庫	其他	県債	一般財源		
全体事業内容(主な工種)	床固工1個、流路工補修1,645m			60,000	30,000		27,000	3,000		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、道路の保全								
	間接的効果(定量的・定性的)	森林整備の推進、特用林産物(山菜等)の活用による山村振興								
評価の視点	必要性	○人家戸数:28戸 ○公共施設:市道L=5,000m、林道内山線ほかL=800m、公民館1棟 ○要配慮者利用施設:なし ○保安林・林業用施設:保安林率34%							評価	B
	重要性	○過去の災害履歴:S36年一般災 ○交通遮断による地域経済への影響:影響度 中(市道、林道) ○地域防災計画上の位置づけ:北アルプス地域治山施設長寿命化(個別施設)計画							評価	B
	効率性	○費用対効果(B/C):20.66 ○事業期間:2年間(R2~R3) ○工法の比較検討:検討あり ○流域の総合調整:調整の必要がない							評価	A
	緊急性	○流域の地形、地質:花崗岩 ○平均溪床勾配:30%(17°) ○下流の堰堤等の整備状況:なし ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:危険地区Aランク							評価	A
	計画熟度	○地域住民が、既存施設の安全性を問い、大町市役所経由で確認 ○地域の取り組み:地元清水区の主催で、「常盤清水地区の防災(水・森林)学習会」が開催された。 ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働:地元区、大町市、県が一体となって、作業道のルート設定の検討を行った。 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後3-11							評価	B
	所管課意見	当該地は、これまでの降雨等により流路工底部の洗堀が進行している。今後の降雨等により施設が損壊し、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。					採択状況	総合評価		
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	B			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手				

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該地は、昭和40年代を中心に谷止工・流路工が整備されてきたが、劣化による床固工の破損や、浸食作用による流路工の溪床部の洗堀が生じている。今後、この状態を放置すると、床固工の倒壊等により土砂が流出し下流地区に被害を与える恐れがあるため、「長野県北アルプス地域治山施設長寿命化(個別施設)計画」により、優先度を考慮し各施設への対策を図る。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成30年11月5日に地元常盤清水区の主催で「大町市常盤清水地区の防災(水・森林)学習会」が開催され、その席において、内山沢、中ノ沢、九津沢の老朽化した治山施設の補修についての要望が出された。	
	③事業説明等の経緯	・平成26年12月1日に、事業概要と保安林の指定承諾について、大町市とともに説明会を行った。 ・平成30年11月6日に、事業計画について地元説明会を行った。 ・具体的な工事内容について、令和2年2月下旬に説明会を行う予定	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	他事業との関連なし。	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	既存施設の補修であり施工範囲が限定される上に、近接する人家等は無く、希少動植物の存在も確認されていないため、特別な配慮は必要ないと考えられる。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	下方集落及び市道・林道、用水路の保全により、地域生活の安全・安心に寄与できる。	
	⑦その他	下流集落内の水路は通水断面が小さく、度々溢水による被害が発生しているため、流路工の底張には、透水性が良く、コンクリートに比べて流出量の増加を抑えることのできるフロン箆を採用した。	
事後・再評価からのフィードバック	○当該地区は古くから多くの治山工事を実施してきているが、劣化による床固工の破損や浸食作用による流路工の溪床部の洗堀が生じているため、今後は施設の適切な維持管理が必要。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 48' 59" 00 東経:E 36° 28' 32" 00



(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		—		
事業毎の通番		市町村名		千曲市		箇所名(ふりがな)		
						寄合沢(よりあいざわ)		
事業概要	事業目的	当箇所は、山地災害危険地区(崩壊土砂危険地区)、土砂災害防止法のレッド、イエローの区域に指定されており、また、既設の谷止工の経年劣化により溪岸侵食が見られるため、谷止工の修繕等により治山施設の機能回復、および、下流保全対象への被害防止を目指す。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法、保安林(土流)		
	関連する事業、計画等	なし						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家10戸、市道150m、上水道施設1棟(県企業局上田水道管理事務所 新山配水池)						
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2022年度(令和4年度)	費用対効果	5.6	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	・谷止工 2個、谷止工修繕(根継) 1個			58,000	29,000	0	26,000	3,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、市道、上水道施設の保全						
	間接的効果(定量的・定性的)	・地域住民のライフラインの保全						
評価の視点	必要性	人家戸数	10戸					評価
		公共施設数	2箇所 市道、上水道施設					
	重要性	災害時要援護者関連施設の有無	なし					評価
		保安林・林業用施設	土砂流出防備保安林(保安林率:14.01ha/64.43ha=21.7%)					
		過去の災害履歴	なし					
		交通遮断による地域経済への影響	中 市道					
効率性	費用便益比(B/C)	5.55					評価	
	事業期間	3年間 (R2~R4)						
緊急性	工法等の比較検討	なし					評価	
	流域の総合調整	あり 県企業局と調整						
	流域の地形、地質	第3紀層 泥岩						
計画熟度	平均渓床勾配(平均山腹勾配)	21°(38%)					評価	
	下流の堰堤等の整備状況	谷止工1基						
所管課意見	山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域	山地災害危険地区(崩壊土砂流出危険地区:Aランク)					総合評価	
	事業情報の共有	県企業局と情報共有						
	地域の取り組み	事業の実施について要望がある						
	地域の合意形成	千曲市より住民へ説明						
技術管理室意見	住民との協働	なし					B	
	PDCA	事後評価 課題整理表 整理表番号:3-1						
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図】(任意縮尺)

【整備の必要性がわかる状況写真等】

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	新山地区は山地災害危険地区、土砂災害特別警戒区域のレッド、イエローゾーンに指定されており、県企業局の上水道施設が隣接しているため、治山施設の強化や事前防災が求められる。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	既設谷止工が崩壊し溪岸侵食が進み、崩壊した積石が溪流に流出している状態にあるため、地域から補修の要望を受けた。
③事業説明等の経緯	令和元年6月19日に関係者との現地調査を行い、了承を得ている。その際に早期の事業化を要望されている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	県企業局上田水道管理事務所(上水道施設)との調整
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	今後の降雨や台風等により土石流が発生し、市道や民家等に被害が及ぶ恐れがあるため、早急な対応が必要となる。
⑥地域活性化への影響と配慮	工事の実施によりライフラインの確保ができる。
⑦その他	

事後・再評価からのフィードバック

事後3-1 当該地は経年変化により溪流の侵食及び不安定土砂の堆積が進んだ地形であり、精度を確保するため、航空レーザー測量の成果を事業計画に活用する。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 138° 8' 39" 00  
東経:E 36° 27' 19" 00



(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		-	
事業毎の通番		市町村名		栄村		箇所名(ふりがな)	
						平滝(ひらたき)	
事業概要	事業目的	当箇所は信濃川流域千曲川の左岸、栄村の平滝集落(人家20戸)の北東側に位置し、昭和30年に発生した災害で二俣川付近を通過するJR(旧国鉄)の橋脚や田畑、民家に被害を及ぼしており、以来治山施設が多く整備がされている。しかしながら、一部の施設においては、施工から相当の年数が経過していることから本体が劣化・破損しているなど、機能の低下が危ぶまれている。このため、谷止工の更新(新設)を行い、治山施設の機能の強化及び機能を維持する老朽化の対策を図りたい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法	
	関連する事業、計画等	なし					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	国道100m、JR100m、人家40戸					
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2021年度(令和3年度)	費用対効果	3.5	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	谷止工2個 谷止工補修1個			54,000	27,000	24,000	3,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	既存治山施設を補修することによる下流域の国道、JRの保全					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域住民の安心・安全の確保					
評価の視点	必要性	○人家戸数:40戸 ○公共施設: 国道100m、JR100m ○災害時要配慮者利用施設: なし ○保安林・林業用施設:保安林率25%					評価
	重要性	○過去の災害履歴: 昭和30年に土砂流出 ○交通遮断による地域経済への影響: 大 ○地域防災計画上の位置付け: 栄村地域防災計画に掲載(土石流災害警戒区域)					評価
	効率性	○費用対効果(B/C): 3.48 ○事業期間: 2年間 ○工法等の比較検討: 点検診断後の実施設計において、工法の比較検討を実施済 ○他事業との連携: 他事業との連携なし					評価
	緊急性	○流域の地形、地質: 新第三紀 堆積岩類 ○平均溪床勾配(平均山腹勾配): 4°(7%) ○下流の堰堤等の整備状況: 対象箇所のうち2箇所は最下流、1箇所は既存施設が満砂状態 ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域: 崩壊土砂流出危険地区 602-9 A(a1-a2)					評価
	計画熟度	○事業情報の共有: 栄村に長野県の治山施設の老朽化対策について周知 ○地域の取り組み: 栄村より要望あり ○地域の合意形成: 点検診断結果を各地域に対し説明を行う予定 ○住民との協働: なし ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック: 事後3-11					評価
所管課意見	当該地は、これまでの降雨等により治山施設の洗堀や破損が進行している。今後の降雨等により施設が損壊し、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。					採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手		

**位置図**

**事業概要説明図表**

**下流保全対象 国道117号**

**平面図**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	過去において災害があり、様々な事業により治山施設を施工して溪流の安定を図ってきたが、長い年月により施設の劣化・破損が生じており、機能の低下が懸念される。今後の降雨等により施設が倒壊して下流域へ土砂が流出し、災害を発生させる恐れがある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	栄村に長野県の治山施設の老朽化対策について周知点検診断結果を各地域に対し説明を行う予定
③事業説明等の経緯	栄村に長野県の治山施設の老朽化対策について周知点検診断結果を各地域に対し説明を行う予定
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	なし
⑥地域活性化への影響と配慮	工事を実施することにより、既存施設の機能が強化・維持され、下流域にある国道やJR等の安全を確保される。
⑦その他	なし

事後・再評価からのフィードバック

当該箇所には古くから多くの治山工事を実施してきたため、いくつかの施設については老朽化により劣化・破損しており、計画的に既存施設の機能の維持に努める。

事業代表地点の緯度経度

北緯: N 138° 32' 18" 00  
東経: E 36° 59' 18" 00



(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		—			
事業毎の通番		市町村名		上田市		箇所名(ふりがな)			
				渋田見(しぶたみ)					
事業概要	事業目的	当該地域は、長野県東部の信濃川支流の一級河川内村川の上流に位置し、流域面積約130haである。この地域の年平均降水量は1,253mmであり、令和元年10月12日発生した豪雨災害時には24時間で320mmの降雨が観測され、観測史上最多24時間雨量となった。令和元年台風19号で侵食を受けた法面に護岸工を施すことにより、今後の降雨による土砂流出を防ぐ。 また、流域全体の林分の高密度化が進んでいることから、このまま放置すれば沢地形箇所を中心に流木が発生し、下流へ流出すれば下流へ甚大な被害を与えるおそれがある。そのため本事業にて本数調整伐および受光伐を実施することで、立木の根幹の肥大成長を促し、また、複層林へ誘導することにより災害に強い森林へ誘導する。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法			
	関連する事業、計画等	なし							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家11戸、田2.07ha、畑2.16ha、国道500m、市道1,000m、一級河川内村川							
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2020年度(令和4年度)	費用対効果	4.0		国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	護岸工40m 森林整備44.13ha(本数調整伐、受光伐)			36,000	18,000	0	16,000	2,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、国道、市道、簡易水道施設							
	間接的効果(定量的・定性的)	地域住民のライフラインの保全							
評価の視点	必要性	○保全対象：人家11戸、国道、市道、簡易水道施設 ○保安林：保安林率97.50%						評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：長野県地域防災計画、上田市地域防災計画 ○交通遮断による地域経済への影響：影響度大(国道の遮断) ○過去の災害履歴：R元.10 台風19号災						評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C)：3.97 ○事業期間：3年間 ○総合調整：調整中(上田市、鹿教湯簡易水道組合)						評価	B
	緊急性	○流域の地形、地質：新第三紀層、緑色凝灰岩 ○平均山腹勾配：24° ○下流の堰堤等の整備状況：概ね満砂 ○危険地区：崩壊土砂流出危険地区Bランク						評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：市、簡易水道組合からの要望あり ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:3-5						評価	B
所管課意見	当該地は、令和元年10月の台風19号に伴い渓流が荒廃した。周辺森林は下層植生が乏しく表面侵食や倒木が発生しており、今後の降雨に伴う山腹崩壊や土砂流出により、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。						採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手				

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	<p>位置図</p>	<p>平面図</p>	
事業周辺環境	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
	<p>過密化した森林(カラマツ、樹高15m、密度1,800本/ha) 下層植生が貧弱化し、水土保持機能の低下が危惧される。</p>	<p>渓岸侵食を受けたのり面 今後の降雨により被害が拡大するおそれがある。</p>	
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該地域は、急峻な地形であり、令和元年の台風19号による豪雨で渓岸侵食を受け土砂が流亡した。また、対象区域内は、過去に間伐が行われていないため過密化し、折損や倒木が発生している。また、一部斜面においては、倒木に起因する小崩壊が発生している。本計画において渓岸侵食を受けた箇所に護岸工を設置すること、また、過密林分に森林整備を施し適正な密度管理をすることにより災害に強い森林づくりを行う。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	上田市より、当該箇所について令和2年度治山事業計画要望が提出されている。流域内に住民組合営の水道施設があり、今後の降雨により施設が被災するおそれがあるため、侵食を受けた法面の復旧を施すことにより、損なわれた土砂流出防止機能の回復を望まれている。	
	③事業説明等の経緯	事業実施が具体的に近づいた段階で、地区住民へ周知を行う予定である。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	特になし	
⑥地域活性化への影響と配慮	工事の実施により通行路網及び下流人家・ライフラインの安全確保ができる。		
⑦その他			
事後・再評価からのフィードバック	災害に強い地域づくりを進めるために、周辺森林の整備を一体的に推進する。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 17' 36" 東経:E 138° 07' 47"

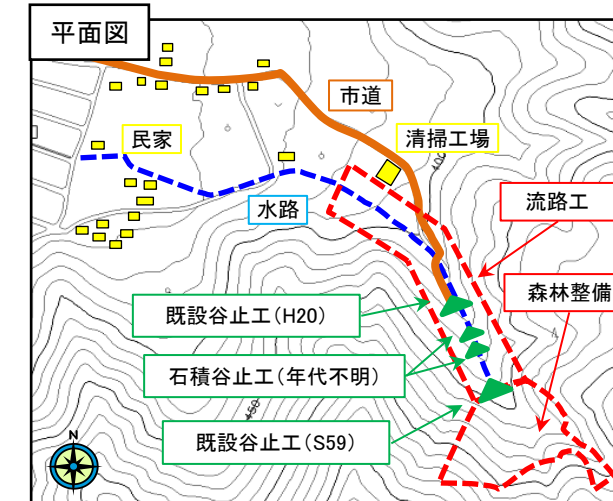


(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		—		
事業毎の通番		市町村名		千曲市		箇所名(ふりがな)		
		千曲市		堂平(どうだいら)				
事業概要	事業目的	過去の台風災害や溪流内の乱流により沿岸侵食が進んでいるため、流路を固定し、洪水時の水位上昇に耐え得る水深の確保を目的として流路工を施工し、溪流の安定を図る。 また、溪流下流の保全対象の安全を図るため、上流の渓床に堆積している倒木の整理を行い、流木化を防止する。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法		
	関連する事業、計画等	なし						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	・市道100m ・清掃工場1棟、住宅20戸						
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2021年度(令和3年度)	費用対効果	2.5	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	・流路工296m ・倒木整理1.00ha			70,000	35,000	31,000	4,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、市道、溪流の保全					
		間接的効果(定量的・定性的)	地域住民のライフラインの保全					
	評価の視点	必要性	人家戸数	20戸				評価
公共施設数			あり 市道					
重要性		災害時要援護者関連施設の有無	なし				評価	
		保安林・林業用施設	土砂流出防備保安林 (10.42ha/24.04ha・・・43%)					
		過去の災害履歴	H17台風災害					
		交通遮断による地域経済への影響	中 市道					
効率性	費用便益比(B/C)	2.47				評価		
	事業期間	2年間 (R2~R3)						
緊急性	工法等の比較検討	あり 流路工の種別について検討				評価		
	流域の総合調整	あり 千曲市と調整						
	流域の地形、地質	第3紀層 深成岩						
計画熟度	平均渓床勾配(平均山腹勾配)	10° (18%)				評価		
	下流の堰堤等の整備状況	なし						
所管課意見	山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域	崩壊土砂危険地区(危険度B(c1,a2))				採択状況	総合評価	
	事業情報の共有	千曲市と情報共有						
	地域の取り組み	事業の実施について要望がある						
	地域の合意形成	千曲市より住民へ説明						
	住民との協働	なし						
PDCA	事後評価 課題整理表 整理表番号:3-1							
技術管理室意見	当該地は、これまでの降雨により溪流が荒廃し、溪流内には倒木も確認されている。周辺森林も下層植生が乏しく倒木が発生しており、今後の降雨により土砂や流木が流出し、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。				○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図】(任意縮尺)



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成17年の台風により、当該溪流より山腹崩壊が発生し、土砂が溪流内に流出した。平成20年度に谷止工1基と作業道の修復を行った。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	河川閉塞こそしていないものの、地元からは土砂の流下について不安視する声及び事業化要望が挙がっている。
③事業説明等の経緯	令和元年6月19日に関係者との現地調査を行い、了承を得ている。その際に早期の事業化を要望されている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	根上りのスギが多く溪流内に倒れ、倒木予備軍が数多くみられる。流木防止のため、倒木整理が必要。
⑥地域活性化への影響と配慮	工事の実施によりライフラインの確保ができる。
⑦その他	
事後・再評価からのフィードバック	事後3-1 当該地は経年変化により不安定土砂が扇状地形に堆積している地形であり、航空レーザー測量の成果を事業計画に活用する。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 9' 60" 00 東経:E 36° 33' 10" 00



(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		-			
事業毎の通番		市町村名		長野市戸隠		箇所名(ふりがな)			
						下荒倉(しもあらくら)			
事業概要	事業目的	事業箇所の溪流は度重なる出水により不安定土砂の堆積及び溪岸侵食が進行しており、今後の降雨による大規模な土砂流出の危険性が高い。当該箇所下流部の市道及び農道は地元住民にとって重要なライフラインであり、流出土砂による深刻な被害が予想される。事業区域では谷止工及び流路工が設けられているが、度重なる出水により十分に機能しているとは考え難い状態のため、新たに谷止工を施工し溪床勾配の安定化及び不安定土砂の捕捉を図る。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法			
	関連する事業、計画等	なし							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象 : 市道400m、農道300m、農地3ha							
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2021年度(令和3年度)	費用対効果	1.8		国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	・谷止工2個			55,000	30,250		22,000	2,750	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	市道400m、農道300m、農地3ha							
	間接的効果(定量的・定性的)	地域住民ライフラインの保全							
評価の視点	必要性	○公共施設 : 市道400m、農道300m ○保安林種、保安林等 : 土砂流出防備保安林、46%						評価	C
	重要性	○災害履歴 : あり(H29豪雨災害) ○地域経済への影響 : 中(市道、農道が遮断される恐れあり) ○事業箇所の位置づけ : 県の地域防災計画に位置付けられている。						評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.77 ○事業期間 : R2~R3(2年間) ○工法等の比較検討 : 谷止工の工法について検討あり。 ○他事業との関連 : 関連無し						評価	A
	緊急性	○地質 : 第3紀層(凝灰角礫岩) ○溪床勾配 : 28%(15.6°) ○堰堤の状況 : 事業箇所下流は既設治山施設なし。 ○山地災害危険地区 : 崩壊土砂流出危険地区(Cランク、地区番号586-23)						評価	A
	計画熟度	○地域の取り組み : 長野市戸隠支所から要望あり。 ○地域合意 : (R1.11.08) 長野市戸隠支所、事業箇所区長に説明の上、立会い済み。 ○PDCA : 事後評価 課題整理表 整理番号:3-1 航空レーザー測量の活用他						評価	B
	所管課意見	当該地は、これまでの降雨により溪流が荒廃している。溪流内には不安定土砂が堆積しており、今後の降雨により土砂が流出し、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。						採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	B	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置		
	平面図		
事業計画図	重要性・必要性確認資料		
	事業計画図		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	事業箇所の溪流は一級河川楠川に合流する支流であり、合流点周辺は平坦な地形で農地として利用されているため、事業箇所の土砂が流出した場合に農地及び農道への被害が予想される。また、楠川沿いの市道が流出土砂等により遮断されると集落間の移動に支障が出る事が予想される。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成29年7月の豪雨により上流部で土砂崩壊が発生し、現在も不安定土砂が溪流内に残留している。溪流内の既設谷止工背面は異常堆砂が見られ、袖部を越えて土砂が堆積している状況であるため、今後の降雨等により溪流内の土砂が下流の市道及び農道まで流出する恐れがあるとして長野市戸隠支所より対策工の要望を受けた。	
	③事業説明等の経緯	戸隠支所へは事業箇所の現状について説明済み。事業箇所の区長様をおとして地元住民へ事業箇所の現状について説明済み。事業実施が決定したら詳細な説明を行う予定。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	なし	
	⑥地域活性化への影響と配慮	なし	
	⑦その他	なし	
事後・再評価からのフィードバック	事後 3-1 当該箇所は溪床が急峻な地形で洗掘、侵食が進んでいるため、航空レーザー測量の成果を活用し事業計画を作成する。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 43' 1.0" 東経:E 138° 4' 5.9"



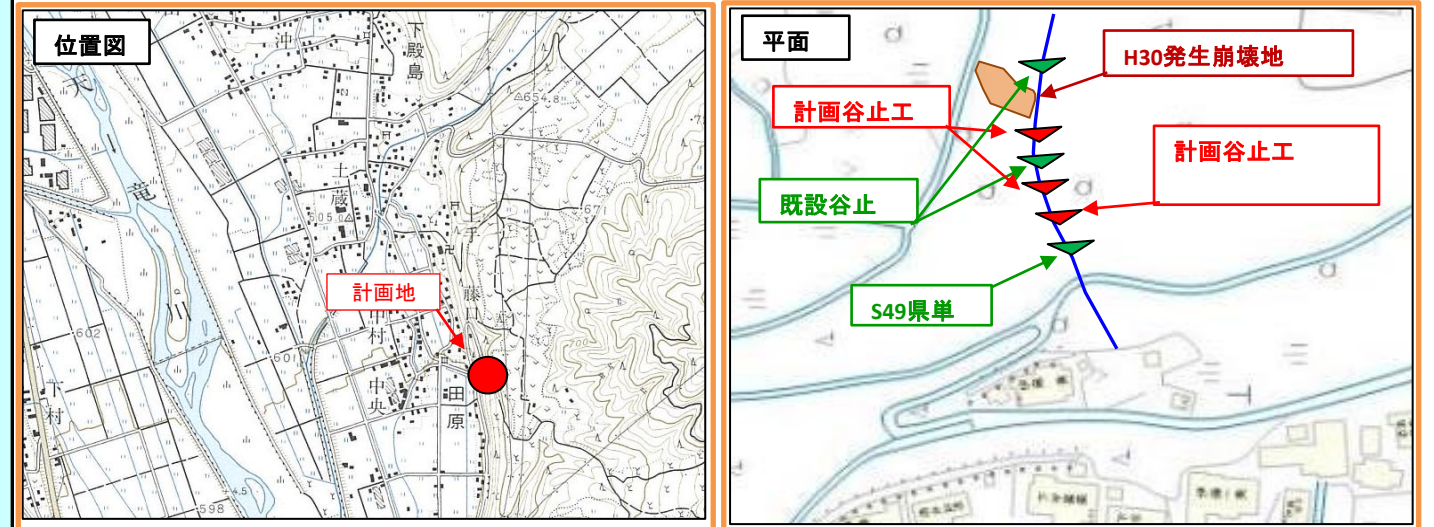
(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		—			
事業毎の通番		市町村名		伊那市		箇所名(ふりがな)			
						清水坂(しみずさか)			
事業概要	事業目的	当該地は、H30. 9月発生の台風21号により、溪流左岸側に新生崩壊が発生した。下流にある既設木製堰堤(年代不詳)は、腐朽が進み決壊しつつあるため、早急に恒久的施設を整備し、下流保全対象への土砂流出防止を図る。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法			
	関連する事業、計画等	長野県地域防災計画 伊那市地域防災計画							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家10戸、市道300m							
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2021年度(令和3年度)	費用対効果	3.7		国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	谷止工(コンクリート) 3個			68,000	34,000		30,000	4,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	地域住民生活の安心安全の確保及びその他保全対象の保全							
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の観光振興に寄与							
評価の視点	必要性	○人家戸数 : 10戸 ○公共施設数 : 1箇所(市道) ○要配慮者利用施設の有無 : なし ○保安林、林業用施設 : 土砂流出防備保安林(谷止工3個、木製・石積堰堤2個)						評価	B
	重要性	○過去の災害履歴 : 過去には複数回、下流への土砂流出あり ○交通遮断による地域経済への影響 : 住民生活、地域観光への影響大 ○地域防災計画上の位置付け : 県・土砂災害防止区域、土石流危険溪流						評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 3.71 ○事業期間 : 2年間 ○工法等の比較検討 : 谷止工の種別の検討 ○流域の総合調整 : 今後、必要があれば調整						評価	A
	緊急性	○流域の地形、地質 : 領家帯縞状片麻岩 ○平均傾斜勾配(平均山腹勾配) : 溪床勾配30%以上 ○下流の堰堤等の整備状況 : 谷止工3個、年代不詳木製・石積堰堤2個 ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域 : 土砂災害防止区域(イエロー)						評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 市役所関係者に対し、公共事業化の説明済 ○地域の取り組み : 田原地区から市役所を通じて要望あり ○地域の合意形成 : 同上 ○住民との協働 : 地域の水防活動等あり ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:3-8						評価	B
	所管課意見	当該地は、平成30年9月の台風21号に伴い山腹が崩壊した。下流治山施設は経年により破損しており、今後の降雨により崩壊が拡大し土砂が流出した際に施設が損壊し、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。						採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	B	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

(どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	計画地下流には、人家10戸、市道300メートル等の保全対象があるため、老朽化した年代不詳木製堰堤が決壊した場合には、地域の住民生活に大きな影響があるため、当該復旧工事への地元の強い要請がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該箇所は、過去に下流への土砂流出が複数あり、H30. 9月に新生崩壊が発生し、既設木製堰堤も腐朽により決壊の恐れがあるため、地元田原区から伊那市に対して、事業要望が行われている。
③事業説明等の経緯	市役所に対しては、事業導入の可能性について説明しており、今後、事業実施が確実になった時点で、地元地区へも事業説明を行う予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	当該地は土砂災害防止法上のイエローゾーンや土石流危険溪流に位置付けられているが、保安林に指定されており、治山事業既施工地であるため治山事業で対応する。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該復旧工事は、狭隘な溪流内で実施されるため、自然環境や景観に与える負荷は少なく、谷止工の施工により溪間の安定が図られることによる地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、人家及びその他公共施設の保全が図られた場合に、地域の生活環境及び観光振興に対する好影響が期待できる。
⑦その他	○コスト削減、建設副産物削減、工法検討等について記載
事後・再評価からのフィードバック	○令和元年度にインフラ長寿命化対策に向けた既存施設の点検調査を行うことにより、溪流内に存在する施設の補修等に取り組んでいる。

事業代表地点の緯度経度  
北緯:N 138° 00' 00" 00  
東経:E 36° 00' 00" 00



(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		—	
事業毎の通番		市町村名		箇所名(ふりがな)		唐木沢(からきさわ)	
事業目的		当該地にあるS47施工の既設谷止工は、老朽化により、本体下流面の水抜き位置に縦クラックが発生し、満砂状態でもあるため、今後の豪雨等により決壊した場合には、多量の堆積土砂が流出し、下流の人家や村道、農地等の保全対象に甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、当該谷止工の増厚等の機能強化を図り、住民生活の安全に資する。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け		4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法	
関連する事業、計画等		長野県地域防災計画 辰野町地域防災計画					
保全対象・範囲 受益対象・範囲		人家15戸、町道1500m、農地2.83ha、水道施設					
着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2021年度(令和3年度)	費用対効果	12.4	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	谷止工増厚2個			32,800	16,400	15,000	1,400
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	地域住民生活の安心安全の確保及びその他保全対象の保全					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の観光振興に寄与					
評価の視点	必要性	○人家戸数 : 15戸 ○公共施設数 : 2箇所(町道、水道施設) ○要配慮者利用施設の有無 : なし ○保安林、林業用施設 : 土砂流出防備保安林 (S40・46・47谷止工)					評価
	重要性	○過去の災害履歴 : 過去には複数回、下流への土砂流出あり ○交通遮断による地域経済への影響 : 住民生活への影響大 ○地域防災計画上の位置付け : 県・土石流危険渓流					評価
	効率性	○費用便益比(B/C) : 12.40 ○事業期間 : 2年間 ○工法等の比較検討 : 谷止工の機能強化方法の検討 ○流域の総合調整 : 今後、必要があれば調整					評価
	緊急性	○流域の地形、地質 : 領家帯縞状片麻岩 ○平均傾斜勾配(平均山腹勾配) : 溪床勾配20% ○下流の堰堤等の整備状況 : S46・47谷止工 ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域 : 崩382-22、土砂災害防止区域(イエロー)					評価
	計画熟度	○事業情報の共有 : 町役場関係者に対し、公共事業化の説明済					評価
		○地域の取り組み : 地区から役場を通じて要望あり ○地域の合意形成 : 同上 ○住民との協働 : 直下にある水道施設について、住民による管理体制あり ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 3-8					
所管課意見	当該地は、治山施設が経年による老朽化により破損しており、今後、施設が損壊した際には土砂が流出し、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。					採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)		
(どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)		
【整備の必要性がわかる状況写真等】		
事業概要説明図表		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	計画地直下には、地域の生活に資する重要な水道施設があり、その他家10戸、JR、国道、町道、排水施設等の重要な保全対象があるため、S40・47既設谷止工が決壊した場合に地域の住民生活に与える影響が大きく、当該復旧工事への地元の強い要請がある。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該箇所は、過去に下流への土砂流出が数回あり、既設も老朽化していることから、地元七蔵寺区から辰野町に対して、事業要望が継続的に行われている。
	③事業説明等の経緯	町役場に対しては、事業導入の可能性について説明しており、今後、事業実施が確実になった時点で、地元地区、へも事業説明を行う予定。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	当該地は土石流危険渓流に位置付けられているが、保安林に指定されており、治山事業既施工地であるため治山事業で対応する。
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該復旧工事は、狭隘な渓流内で実施されるため、自然環境や景観に与える負荷は少なく、谷止工の施工により溪間の安定が図られることによる地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、人家及びその他公共施設の保全が図られた場合に、地域の生活環境及び観光振興に対する好影響が期待できる。
	⑦その他	○コスト削減、建設副産物削減、工法検討等について記載
事後・再評価からのフィードバック	○平成30年度にインフラ長寿命化対策に向けた既存施設の点検調査を行うことにより、渓流内に存在する施設の補修等に取り組んでいる。	
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 00' 00" 00 東経:E 36° 00' 00" 00	



(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		—			
事業毎の通番		市町村名		箇所名(ふりがな)		大沢洞(おおさわほら)			
事業概要	事業目的	当該地にあるS36施工の既設谷止工は、老朽化により、本体下流面にクラックが入り、放水路法肩にも剥離現象が見られる。当該谷止工は異状堆砂状態であり、今後の豪雨等により決壊した場合には、多量の堆積土砂が流出し、直下の人家や下流の村道、農地等の保全対象に甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、当該谷止工の増厚等の機能強化を図り、住民生活の安全に資する。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法			
	関連する事業、計画等	長野県地域防災計画 中川村地域防災計画							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家10戸、村道1,500m、農地7.2ha							
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2021年度(令和3年度)	費用対効果	11.8		国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	谷止工増厚1個			25,500	12,750		11,000	1,750	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	地域住民生活の安心安全の確保及びその他保全対象の保全							
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の観光振興に寄与							
評価の視点	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人家戸数： 10戸</li> <li>○公共施設数： 1箇所(村道)</li> <li>○要配慮者利用施設の有無： なし</li> <li>○保安林、林業用施設： 土砂流出防備保安林(S36谷止工)</li> </ul>						評価	B
	重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過去の災害履歴： 過去には複数回、下流への土砂流出あり</li> <li>○交通遮断による地域経済への影響： 住民生活への影響大</li> <li>○地域防災計画上の位置付け： 県・土砂災害防止区域(イエロー)、土石流危険渓流</li> </ul>						評価	A
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○費用便益比(B/C)： 11.80</li> <li>○事業期間： 2年間</li> <li>○工法等の比較検討： 機能強化方法の検討</li> <li>○流域の総合調整： 今後、必要があれば調整</li> </ul>						評価	A
	緊急性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○流域の地形、地質： 領家帯古期花崗岩類</li> <li>○平均傾斜勾配(平均山腹勾配)： 溪床勾配20%</li> <li>○下流の堰堤等の整備状況： S36谷止工</li> <li>○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域： —</li> </ul>						評価	A
	計画熟度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業情報の共有： 村役場関係者に対し、公共事業化の説明済</li> <li>○地域の取り組み： 地区から役場を通じて要望あり</li> <li>○地域の合意形成： 同上</li> <li>○住民との協働： 直下にある水道施設について、住民による管理体制あり</li> <li>○PDCA 事後・再評価からのフィードバック： 3-8</li> </ul>						評価	A
	所管課意見	当該地は、治山施設が経年による老朽化により破損しており、今後、施設が損壊した際には土砂が流出し、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。						採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手				

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので) (どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)		
事業概要説明図表	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	計画地下流には、人家(直下に1戸)、村道、用水路等の保全対象があるため、S36既設谷止工が決壊した場合に地域の住民生活に与える影響が大きく、当該復旧工事への地元の強い要請がある。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該箇所は、過去に下流への土砂流出が複数あり、既設も老朽化していることから、地元大草南陽区から中川村に対して、事業要望が継続的に行われている。	
	③事業説明等の経緯	村役場に対しては、事業導入の可能性について説明しており、今後、事業実施が確実になった時点で、地元地区、へも事業説明を行う予定。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	当該地は土砂災害防止法上のレッド及びイエローゾーンや砂防指定地に位置付けられているが、保安林に指定されており、治山事業既施工地であるため治山事業で対応する。	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該復旧工事は、狭隘な渓流内で実施されるため、自然環境や景観に与える負荷は少なく、谷止工の施工により溪間の安定が図られることによる地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、人家及びその他公共施設の保全が図られた場合に、地域の生活環境及び観光振興に対する好影響が期待できる。	
	⑦その他	○コスト削減、建設副産物削減、工法検討等について記載	
事後・再評価からのフィードバック	○平成30年度にインフラ長寿命化対策に向けた既存施設の点検調査を行うことにより、渓流内に存在する施設の補修等に取り組んでいる。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 00' 00" 00 東経:E 36° 00' 00" 00



(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

Main project evaluation table with columns for project name, location, purpose, budget, and evaluation criteria. Includes sections for '事業概要' (Project Overview) and '評価の視点' (Evaluation Perspectives).

Project summary and site information including '位置図' (Location Map), '平面図' (Plan View), '事業概要説明図表' (Project Overview Diagram Table), '事業周辺環境' (Project Surrounding Environment), and '事後・再評価からのフィードバック' (Feedback from Post-Project/Re-evaluation).



(様式1-2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		治山事業		路河川名等		—	
事業毎の通番		市町村名		箇所名(ふりがな)		中ぬけ沢他(なかぬけさわほか)	
事業概要	事業目的	当該地は過去に施設整備を進めてきた箇所であるが、近年の豪雨により下流保全対象が被災する等、施設の機能強化・老朽化対策が望まれている。小谷村および大町市内の既存施設について、既設谷止工の増厚・嵩上げや直下に谷止工を新設することにより、下流保全対象の安全を確保したい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		森林法	
	関連する事業、計画等	森林整備保全事業計画					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	JR大系線(白馬大池駅)100m、県道410m、村道100m、林道250m					
	着手年度	2020年度(令和2年)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2022年度(令和4年)	費用対効果	2.6	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	谷止工増厚嵩上2個、谷止工1個			127,500	63,750	57,000	6,750
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、鉄道、県道、村道、林道の保全					
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い森林づくり推進					
評価の視点	必要性	○人家戸数 : 20戸 ○公共施設 : JR大系線、県道、村道、林道 ○要配慮者利用施設 : なし ○保安林・林業用施設 : 保安林率48%以上					評価
	重要性	○過去の災害履歴 : H7.7梅雨前線豪雨災 ○交通遮断による地域経済への影響 : 鉄道、県道 ○地域防災計画上の位置づけ : 県及び市町村の両方に位置付けあり					評価
	効率性	○費用対効果(B/C) : 2.62 ○事業期間 : 3年間(R2~R4) ○工法の比較検討 : 検討あり(既存施設の嵩上げによるコスト削減) ○流域の総合調整 : 関係機関と調整を行っている途中					評価
	緊急性	○流域の地形、地質 : 火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯かつ地すべり地形 ○平均溪床勾配 : 14° ○下流の堰堤等の整備状況 : 砂防堰堤あり(概ね満砂) ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域 : Aランク					評価
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(参加者を関係者に限定した事業説明会を実施) ○地域の取り組み : 協力的である(地域住民や市町村から事業計画に対して要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的及び整備手法について地域の合意形成が図られている ○住民との協働 : 評価区分「A」「B」以外 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後3-5					評価
所管課意見	当該地は、治山施設が経年による老朽化により破損しており、今後、施設が損壊した際には土砂が流出し、下流保全対象に被害を及ぼすおそれがあることから、対策工を実施する必要がある。				採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	【位置図】			
	中抜沢地区	<p>S50谷止工の増厚・嵩上げを計画</p>		
	梨平地区	<p>H7谷止工(増厚・嵩上げを計画)↓</p> <p>R1.7林道大岩線被災状況</p>		
	前沢地区	<p>S36谷止工直下に谷止工新設を計画</p>		
	事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	令和元年7月の豪雨災により、梨平地区では保全対象が被災し、既存施設の機能強化の必要性が明らかになった。同じく既存施設の機能強化の必要がある中抜沢、老朽化対策の必要がある前沢の対策も併せて行っていく。	
		②地域からの要望経緯及び地域の関わり	梨平地区においては、森林及び農業用取水施設の管理のために地域住民に利用されている林道大岩線が、例年の豪雨により度々被災し、都度通行止めになるため、地元住民から強い要望が上がっている。中抜沢、前沢の施設に対しても、地元から機能強化・老朽化対策の強い要望が上がっている。	
		③事業説明等の経緯	治山事業の趣旨を役場を通し説明し、早期実現が待たれている。	
		④他事業・プロジェクトとの整合、関連	上流保安林の整備を治山事業で実施し、下流砂防指定地内は砂防事業により維持管理を行う。	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮		既設の治山ダムを利用した増厚・嵩上げを行うことにより、自然環境への負荷を極力抑える。		
⑥地域活性化への影響と配慮		本事業により土砂の流出が抑えられ、鉄道・県道・村道・林道の安全な通行が確保できることにより、地域活性化が期待される。		
⑦その他		○既存治山施設の機能強化・老朽化対策によりコスト削減を図る。		
事後・再評価からのフィードバック	森林の水土保全機能を維持・向上させていくために、流域内の森林現況や荒廃状況、過去の防災対策の履歴や発現効果等を正確に把握・検証した上で、長期的な視野に立った、効果的な治山対策を検討した。			
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 46'25.6"			
	東経:E 137° 54'11.9"			